

刊行された「板垣精神」。写真なども多数収録されている



たつて語り継いでいかねばならないと、高岡さんは言う。  
幕末維新の武人としての板垣、明治の自由民権運動の指導者としての板垣、そして社会改良事業に尽くした後年の中の板垣。その83年の生涯が、「憲政と土佐」「自由党史」「板垣退助君略伝」「明治功臣録」「板垣伯岐阜遭難録」など、多数の文献を参考しながら叙述されている。

板垣が晩年口述した著書「立國の大本」、臨終のときの新聞記事や大江卓、河野広中らの談話、年譜と板垣家系図・墓所、全国5カ所に立つ銅像、子孫・縁者の思い出話、板垣顕彰会の活動などを収載されている。

曾孫の小山朝和さん  
が伝え聞いた話。西郷

版 (パレード「大阪本  
社」大阪市北区天満2  
の7の12) 発行、私家  
いました

(片岡雅文)

## 板垣退助没後100年記念

板垣退助の生涯を文献や資料によってつづった「板垣精神」が新しく出版された。

昨年、明治維新150年・板垣没後100年だったのを記念して板垣退助先生顕彰会の手で編まれた伝記で、板垣の玄孫、高岡功太郎さんが

### 玄孫の高岡功太郎さん監修

監修を務めている。

板垣精神とは、明治維新の五箇条の御誓文や岐阜で遭難した際の

板垣の言葉「板垣死すとも自由は死せず」に表されているもの。わが国の今日の自由と平和はこの精神の上に築かれており、将来にわ

たって語り継いでいかねばならないと、高岡さんは言う。  
幕末維新の武人としての板垣、明治の自由民権運動の指導者としての板垣、そして社会改良事業に尽くした後年の中の板垣。その83年の生涯が、「憲政と土佐」「自由党史」「板垣退助君略伝」「明治功臣録」「板垣伯岐阜遭難録」など、多数の文献を参考しながら叙述されている。

板垣が晩年口述した著書「立國の大本」、臨終のときの新聞記事や大江卓、河野広中らの談話、年譜と板垣家系図・墓所、全国5カ所に立つ銅像、子孫・縁者の思い出話、板垣顕彰会の活動などを収載されている。

## 新しい伝記「板垣精神」

隆盛と西南戦争について、板垣はこう回顧したという。「西郷さんは本気で攻め上がるつもりは無かつたろう。もしそうであれば決起と同じくひとまず速やかに馬関海峡を抑えるのが兵法の常道だ。熊本鎮台などはそのあとで良い。九州を抑えて時期を待つのが良策であることは西郷さんなら承知していたろう」

また、同じ曾孫の川瀬光世さんも、こんな想い出を語っている。「昭和二十八年十一月には、曾祖父の肖像の百円札が発行されました。清貧に甘んじ、金銭に縁の無かつた曾祖父が紙幣の肖像になるなんて……私はとても不思議に思いましたが、母はとても喜んでいました」